

## 離婚による片親引き離しが子どもに与える影響

○ 東北公益文科大学 氏名 益子 行弘 (会員番号 008044)

キーワード：離婚、親子引き離し、虐待

### 1. 研究目的

両親の離婚が子どもに与える影響について、これまで臨床領域では研究が盛んに行われ、悪影響が報告されている。とくに別居親と会えていない子どもについては、低い自己評価や抑うつ、他者に対する基本的信頼感の欠如が生じる傾向があるといった報告もあり (Baker, 2005)、一部研究者からは、同居親 (監護親) による、子どもと別居親との引き離し行為がその大きな要因であると指摘されている。しかしながら、これらほとんどが臨床領域からの報告であり、量的な研究はほとんど行われていない。そこで、両親の離婚後、別居親と会えていないという環境が、子どもにどのような影響を与えているのか明らかにすることを目的とした。

### 2. 研究の視点および方法

■調査対象者： 東京都，埼玉県，新潟県，宮城県，山形県内の，両親が離婚し，片親家庭の小学4年生から高校3年生 212名を対象とした。「別居親と月に1回以上会っている」と「(親の意向で)別居親と会えていない，会ったことがない」でさらに群分けした(表1)。

■調査内容： 質問紙および面接法により，「自分自身について」，「今の生活について」，「他者との関係について」の3カテゴリー・計18項目を，「全然そう思わない」，「あまりそう思わない」，「どちらでもない」，「少しそう思う」，「とてもそう思う」の5件法にて回答してもらった。さらに，「別居親の誹謗中傷を聞いたことがあるか」をたずね，同居親らに対しては「子どもの前で同居親の誹謗中傷を話したことがあるか」をたずねた。

■調査時期： 調査は，平成21年10月から平成24年3月において行った。

表1 調査対象者

	別居親と 会えている	別居親と 会えていない
小学生	23	65
中学生	23	49
高校生	14	40
計	58	154

(人数)

### 3. 倫理的配慮

本研究を遂行するにあたり、日本社会福祉学会「研究倫理指針」に基づき、倫理的配慮を行った。個人情報には十分配慮し、研究以外には一切使用しないこと、研究に必要ない個人情報および相談内容については外部に一切漏らさないことを厳守する旨を説明し、同意いただいた。

#### 4. 研究結果

各質問項目の評定平均値および分散分析の結果を表2に、分散分析により有意差がみられた項目の評定平均値を図1に示す。表2および図1から、別居親と会えている群と会えていない群を比較すると、別居親と会えていない子どもたちは、「自分は悪い人」、「自分は不幸だ」、「他人を傷つけやすい」、「他人から嫌われやすい」、「自分をだまそうとしている」、「家にいると嫌な気分になる」、「いつかとても恐いことが起こりそう」の項目で値が高く、「自分が好き」、「今の生活が好き」、「他の人よりデキる」の項目で値が低くなる傾向が明らかとなった。

表2 各質問項目の評定平均値

項目	会えている	会えていない
自分が好き	3.3	2.5*
自分は悪い人	2.2	3.5**
自分はひとりぼっちだと思う	3.1	3.5
自分には良いところがある	3.8	3.3
自分は不幸だ	2.6	3.3*
死にたくなることがある	1.9	2.3
今の生活が好き	3.3	2.7*
家族が嫌い	2.3	2.5
家族と一緒にいるのは楽しい	3.5	3.7
家にいると嫌な気分になる	2.5	3.2†
将来は良い生活をしているだろう	2.6	2.4
いつかとても恐いことが起こりそう	3.8	4.4*
他の人を傷つけやすい	1.8	2.7**
他の人から嫌われやすい	2.6	3.5**
他の人と話すのは楽しい	3.9	3.5
世の中には良い人が多い	2.6	2.8
悪い人が自分をだまそうとしている	2.5	3.4**
自分は他の人よりデキる	3.3	2.5**

\*\* :  $p < .01$ , \* :  $p < .05$ , † :  $p < .10$

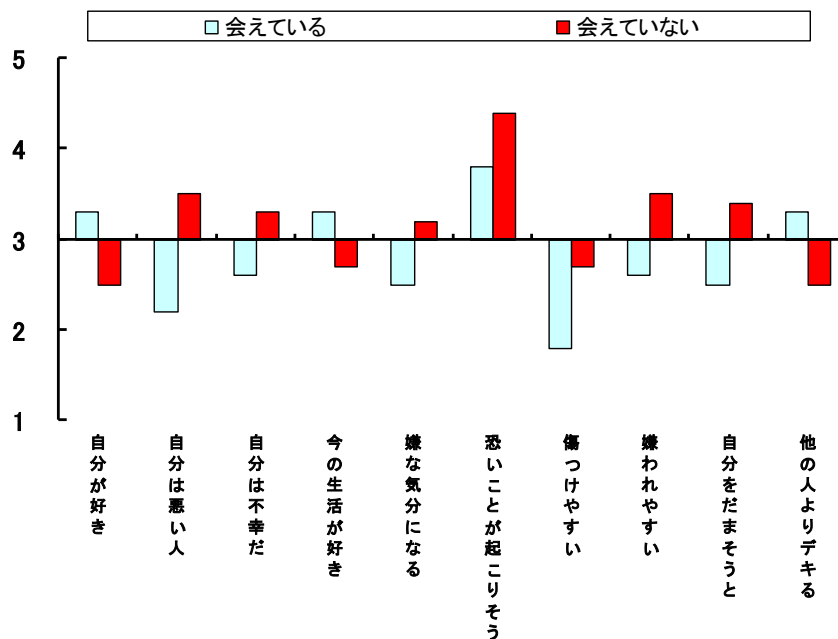


図1 各質問項目の評定平均値 (有意差が見られた項目のみ)

#### 5. 考察

離婚後に別居親と会えていない子どもは、Baker(2005)が指摘したように、自己評価や自己肯定感が低くなるのが量的調査においても確認できた。また、野口(2009)が示した他者不信感への影響についても支持する結果となった。このような結果となった背景には、同居親による別居親の誹謗中傷が、子どもに何らかの影響を与えた可能性もある。しかし、その要因は明らかにできておらず、今後さらに検討していく必要があるだろう。